

外国語教育メディア学会（LET）関西支部中学高校授業研究部会・  
京都教育大学英語の教え方研究会 主催  
2009年度7月例会のご案内

日 時： 2009年 7月 12日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）  
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： LET会員・英語の教え方研究会会員 無料  
京都外国語大学英語教育研究会会員 300円  
学生 200円  
一般 500円

問い合わせ先（電子メールアドレス）： yuitsu@kyokyo-u.ac.jp 西本有逸（京都教育大学）  
j\_suzuki@kufs.ac.jp 鈴木寿一（京都外国語大学）

内容：

13：10～ 受付

13：30 開会（途中休憩あり）

「授業の組み立て：リニアからスパイラル・漆塗りへ（2）」

西本有逸（京都教育大学）

授業の組み立てについては、教科書のパートごとにリニアに進んでいく組み立てが圧倒的に多いと思います。これでは、最後のパートを学習したあと、最初のパートを忘れている場合が多々あります。教科書本文の量にもよりますが、スパイラルあるいは漆塗り（本文に何回も目を通させる）という手法を高校の教科書に基づいて、皆さんとともに考えたいと思います。

15：00

「高校授業の組み立て：インプットからアウトプットまで」

高田哲朗（京都教育大学附属高等学校）

「授業をどのように進めたらよいか」に関して悩むことの最も多いのが「総合英語」である英語Ⅰ、英語Ⅱではないでしょうか。ライティングやオーラルコミュニケーションなどは、目的が明確なので案外指導しやすいものです。それだけに、英語Ⅰ、Ⅱの授業展開の仕方は、教師によって差が大きいようです。

英語Ⅰ、Ⅱの授業で、英文を繰り返し読ませることは現実にどれくらいやられているでしょうか。確かに、生徒は一度読んでしまうと、繰り返し読むことを嫌がり、わかった（と錯覚している）英文を2度、3度読むことより、新しい英文を読むことを求めがちです。しかし、実際はせいぜい字面しか読めていない場合が多いのです。どうしたら飽きさせずに繰り返し英文を読ませることができるか、またインプットからインテイクへ、さらにアウトプットへつなげる力をつけるにはどのような指導法が有効かなどを、皆さんと一緒に考える機会になればと思います。

16：30 閉会

会場までのアクセス：

京阪電車利用の場合

(1) 淀屋橋、天満橋、京橋からは、特急で丹波橋下車、普通電車に乗り換え、墨染駅下車（所要時間約40分）。徒歩約8分。

(2) 四條からは、普通電車で墨染駅下車（所要時間約15分）。徒歩約8分。

JR京都駅よりJR奈良線利用の場合

JR京都駅でJR奈良線に乗り換え、普通電車でJR藤森駅下車（乗車時間約8分）。徒歩約3分。

奈良方面より近鉄電車利用の場合

西大寺にて快速または快速急行に乗り換え、丹波橋下車。京阪本線普通電車に乗り換え、墨染駅下車（乗車時間約40分）。徒歩約8分。

お願い： 最近、メールアドレスを変更される方が増えておりますため、案内をお送りしても100名分以上が戻って来ます。今後、メールアドレスを変更される場合は [j\\_suzuki@kufs.ac.jp](mailto:j_suzuki@kufs.ac.jp) までお知らせください。

今後の予定： 諸般の事情で日程・会場が変わる可能性もあります。

9月13日	京都教育大学
10月11日	〃
12月13日	〃
1月10日	〃
3月下旬	第16回中学高校教員のための英語教育セミナー キャンパスプラザ京都